

講義名	原価計算論B			授業形態	
担当教員	早川 翔	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

利益は、利益＝収益－原価の式で表せます。この式から、少ない原価で多くの収益を獲得することが、利益増大につながると言えます。したがって、企業にとって原価をいかに引き下げるかは重要であり、そのためには自社の原価構造を知る手段としての原価計算が必要になります。本講義では、日商簿記検定2級における工業簿記（原価計算）の範囲、特に総合原価計算に関する内容を学習します。

到達目標

- (1)製品の製造に伴い発生する原価の種類や、個別の原価数値をどのように集計・配賦するかについて学習することで、原価計算の目的や意義が理解できるようになる。
- (2)総合原価計算の計算方法を学習することで、製品を大量生産する場合にどのような原価計算が適用されるかが理解できるようになる。
- (3)標準原価計算を学習することで、原価管理の方法や意義が理解できるようになる。

提出課題

毎回の講義終了後に、授業内容にもとづいた授業内課題を課します。課題の提出にはスマートフォンやタブレットなどが必要です。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

次の授業の講義冒頭にてフィードバックを行います。正答率が低い課題に対しては、再度解説を行う場合があります。

評価の基準

毎回の授業内課題の成績（30%）と期末試験（70%）で評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

- ・原価計算の内容は積み重ねが重要な学問なので、休むと次回以降の内容がわからなくなります。
- ・授業では計算問題を扱うことがあるため、電卓が必要です。
- ・ICTを活用した授業内課題を実施するため、スマートフォンやタブレット端末が必要です。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

プリント資料
毎回の講義で使用します。

授業計画

- 第1回 原価計算とは何か
- 第2回 単純総合原価計算1 月末仕掛品原価の計算
- 第3回 単純総合原価計算2 平均法、先入先出法
- 第4回 減価および仕損
- 第5回 工程別総合原価計算
- 第6回 組別総合原価計算
- 第7回 等価別総合原価計算
- 第8回 前半のまとめ
- 第9回 標準原価計算1 原価差異の計算
- 第10回 標準原価計算2 直接材料費差異、直接労務費差異の分析
- 第11回 標準原価計算3 製造間接費の分析
- 第12回 直接原価計算 CVP分析
- 第13回 直接原価計算 固定分解
- 第14回 後半のまとめ
- 第15回 全体のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

次の授業までに、授業で扱った問題について独力で定みなく解けるまで復習が必要がある（4時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目が定める目標(1)と(3)は、本学経営学科の共通DPに貢献する、これらの目標を達成することで、企業が製品やサービスを提供する上で発生する原価の種類や、原価管理の方法について知ることができる。このような知識は、企業でシステムに関する問題探索、課題提案に役立つ。また、目標(1)・(3)は会計コースのDPとも貢献する。目標(1)と(2)の達成により、DPで提示されている企業の財務状態、経営成績を分析する上での初歩的な知識を身につけることができる。また、目標(3)の達成により、DPで提示されている企業が直面する問題や企業の強みを発見した経営戦略の構築に対して貢献できるからである。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業内課題にてICTを利用します。

実務経験の有無及び活用

備考